

## 「教科と関連付けた活動プログラム」について

～学校と連携・協働した体験活動の充実を目指して～

県立青少年研修センター

### 教科と関連付けた活動プログラムの概要

青少年社会教育施設等で行われる自然体験活動を中心とした活動プログラムは、学校や家庭では得ることのできない体験活動を通して、社会的背景からの課題克服や、子どもたちの学び合い、育ち合いに大きな効果があると期待されています。

そこで、より一層学校と連携・協働した体験活動を提供できるように「野外活動及び自然観察」、「文化創作活動」、「レクリエーション」の3つの分野からなる、本センターの活動プログラムと教科等を関連付けた単元指導案を、令和2年度に、それぞれ2つずつ、令和3年度にそれぞれ1つずつ作成しました。

令和3年度には、作成した単元指導案を検証するため、集団宿泊学習の中で、希望の活動プログラムと単元指導案が一致した学校に協力を依頼し、プログラムの展開を検証しました。

#### 作成した単元指導案

〔野外活動及び自然観察〕

- (1) 小学5年 家庭科：野外炊事  
家族の生活再発見，食べて元気に，できるよ家庭の仕事
- (2) 小学5年 特別の教科道徳：野外協力ゲーム  
相互理解，寛容（協力することの大切さ）
- (3) 小学5年 社会科：白銀坂遠行  
私たちの生活と森林

〔文化創作活動〕

- (1) 小学5年 図画工作科：ベニヤパズル  
糸のこの寄り道散歩
- (2) 中学1年 美術科：陶芸A  
暮らしに息づく土の造形
- (3) 小学3年 理科：昆虫クラフト  
昆虫を調べよう

〔レクリエーション〕

- (1) 小学5年 体育科：室内運動会  
体づくり運動（体ほぐしの運動）
- (2) 中学1年 学級活動：レクリエーション2  
よりよい人間関係の形成
- (3) 中学1年 特別の教科道徳：グループワーク  
トレーニング（GWT）  
よりよい学校生活，集団生活の充実（協力）

### 単元指導案の検証

#### (1) 指導の実際

事前に、単元指導案をもとに、活動プログラム展開の流れや役割分担、安全面への注意点・配慮事項等の打合せを行い、本センター職員2人が主になり、引率教諭は、支援・指導をしながら、評価基準をもとに、子どもたちの活動の様子を観察する流れで展開しました。

〔活動プログラム名〕 ベニヤパズル

〔校種・学年〕 小学校・5年生（16人）

〔単元名〕 糸のこの寄り道散歩

〔授業時数〕 図画工作／4時間

（学校1時間，本センター3時間）

〔単元目標〕 曲線切りにした板の形や色の組み合わせ方を試したり，見付けたりして，創造的に発想する力を培う。

〔評価規準〕

#### 【知識及び技能，安全】

電動糸のこの特性を生かし，板の曲線切りを楽しむことができる。

#### 【思考力・判断力，表現力等】

形や色を考え，曲線切りをうまく生かし，作品イメージに関連付けながら，表現できる。

#### 【主体的に学習に取り組む態度】

友だちと自分の作品の特徴について話し合い，よさやおもしろさを認め合うことができる。



#### 【電動糸のこによる切断】

#### 【絵の具での着色】

#### (2) 成果と課題

- 学校の電動糸のこの保有台数には限りがあるため，本センターの施設設備を活用することで，学習内容の充実が図られた。
- 引率者とセンター職員の複数人で対応できたため，安全に留意した指導及び細かい支援ができた。
- 学校との事前打合せで，児童の実態把握と，引率教諭との役割分担をさらに明確にする必要がある。